

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その77

文：矢部 征男

## 奥川・道目の観音堂と文化財

奥川・道目集落の東側、少し高台となる地に美しい外観をした観音堂があります。本尊は正観世音菩薩、脇侍として石造りの地蔵菩薩像が安置されています。元禄12年(1699)、吉田新田村の郷頭宮城三右衛門母が西遊の際、京都よりこの観音像を買い求めて寄進、同年7月15日堂宇(観音堂)を建立したのがはじまりと伝えられています。ここの観音様は、「念ずればあらゆる罪悪を消滅させ」地蔵様を「信ずれば大きな救護を受ける」と伝えられています。現在の堂宇は比較的新しいもので、軒先が大きく張り出している美しい姿をしています。



道目・観音堂

比較的広い境内には祭礼の際、若者たちが力比べをしたであろう「力石」がポツンと遺り、境内の隅には、「六十六部供養塔」と記す碑があります。浄智坊の名を刻む碑や、「寛延四年(1751)六月十八日建立」と刻む「卍一切衆生意指功德之廻向塔」なども読み取ることができます。(卍の文字は左卍に彫られています。)

また、道目集落は吉田新田村から木伏峠を越えて新郷原村へ抜ける街道筋にあり、その分岐点に位置しています。津川と喜多方を結ぶこの街道は古くは往来も多く、会津8代藩主谷敬公も越後巡見の帰路ここを通行して



います。さらに戊辰戦争時には西軍が攻め入り、初めに「奥川の戦い」がおこった地でもありました。このように交通の要所でもあったのです。木伏峠への分岐点は観音堂下であり、そこには寛延4年(1751)に建てられ、道標を兼ねたという「念仏供養塔」が遺されています。



道目・正観世音像



▲野沢ふるさと夏まつり  
盆踊り大会より

今年の夏は、取材で町内の多くのお祭りに参加しました。4年ぶりに再開されたというお祭りも多く、各自自治区の皆さんや関係者の皆さんのお祭りに懸ける熱を会場で感じる事ができました。

(伊藤)

### 編集後記

今月は、8月15日に行われた「二十歳を祝う会」より。振袖と袴がお似合いの3人に協力してもらいました。手で20を作ってほしいというこちらからの急なお願いにも笑顔で応えてくださりありがとうございました。

(2ページから関連記事)

### 今月の表紙